

平成 25 年度第 1 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会 議事要旨

日時 平成 25 年 7 月 23 日（火）午後 1 時 55 分～2 時 40 分

会場 門真市役所本館 2 階大会議室

出席者 松宮委員・西村委員・並松委員・柴田委員・藤井委員・寺西委員・脊戸委員

事務局 地域教育文化課 西山課長補佐 清水主任・学校教育課 渡辺副参事

1. 委員紹介

<事務局>

それでは、ただいまから平成 25 年度第 1 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を開催いたします。

まず初めに、人事異動等により委員の一部に変更がございましたので、事務局より改めまして委員の皆様方をご紹介させていただきます。お手元の資料 1 第 1 回推進委員会議事次第の裏面をご覧ください。

関西外国語大学英語キャリア学部、松宮新吾教授でございます。

関西外国語大学国際言語学部、西村孝彦教授でございます。

関西外国語大学外国語学部、並松善秋教授でございます。

門真市教育委員会事務局学校教育部長、藤井良一でございます。

門真市教育委員会事務局生涯学習部長、柴田昌彦でございます。

門真市教育委員会事務局学校教育課長、寺西照之でございます。

門真市教育委員会事務局地域教育文化課長、脊戸隆でございます。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

地域教育文化課課長補佐、西山公美子でございます。

学校教育課副参事、渡辺大樹でございます。

地域教育文化課主任、清水智覚でございます。

お手元の資料のご確認をお願いします。

まず、資料 1、第 1 回推進委員会議事次第ならびに委員会名簿です。

資料 2、審議会等の会議の公開に関する指針（抜粋）です。

資料 3、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則です。

資料 4、平成 24 年度門真市めざせ世界へはばたけ事業評価表です。

資料 5、第 2 回海外派遣研修行程表、第 1 回、第 2 回事前研修報告書、そして海外派遣研修生名簿です。

資料 6、第 3 回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト実施要項です。

2. 委員長・副委員長の選出

<事務局>

それでは、案件 1「委員長、副委員長の選出」に入りたいと思います。

お手元にごございます資料 2、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第 4 条の規定により、委員長及び副委員長は互選により定めることとなっております。

選出にあたりまして、いかがいたしましょうか？

<脊戸委員>

委員長には、前任の柴田委員を、副委員長には、これまで本事業に深くかかわっていただいております松宮委員を推薦させていただきます。

<事務局>

委員長に柴田委員、副委員長に松宮委員の推薦をいただきましたが、委員のみなさまいかがでしょうか？

<推進委員>

異議なし

<事務局>

異議なしの声をいただきましたので、委員長には、柴田委員を、副委員長には、松宮委員にお願いしたいと思います。

3. 委員長、副委員長挨拶

<事務局>

それでは、柴田委員長よりご挨拶をお願いいたします。

<柴田委員長挨拶>

門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様方には、公私ご多忙の中、ご出席を賜りお礼申し上げます。

特に、関西外国語大学の先生方につきましては、門真市まで足を運んでいただき、誠にありがとうございます。

さて、門真市めざせ世界へはばたけ事業につきましては、昨年度初めて9人の海外研修生をオーストラリア、アデレード市に派遣しまして、帰ってきた研修生の声を聞きますと大きな成果を得ることができたと考えております。さらに本年2月に行われました第2回目のプレゼンテーションコンテストでは、前回は大きく上回る367人の応募があり、今事業がますます大きく充実しつつあると感じております。さらに第2回目の海外派遣研修も控えており、第3回目のプレゼンテーションコンテストの募集も始まっております。今年度はいままでの成果、経験を基にさまざまな改善を加えながら、さらに発展させていかなくてはならないと考えております。そのためにもますますの皆様方との協力と連携の下、この事業が、本当に門真の教育のため、子どもたちのためになる素晴らしい取り組みとなるよう、活発なご審議をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

<事務局>

つづきまして、松宮副委員長よりご挨拶をお願いいたします。

<松宮副委員長挨拶>

副委員長を拝命いたしました、関西外国語大学の松宮でございます。よろしくをお願いいたします。

さて、これまではばたけ事業にかかわってまいりまして、先ほど三宅教育長とお話をさせていただき、門真に在住する中学生、とくに公立の中学校に通っている中学生がその地域やその中学校のリーダーと

して育っていく、つまりリーダー育成の部分に非常に効果があがってきていると伺いました、

それからこのプログラムによるインセンティブは、オーストラリアへいく、いけるということではなく、参加した子供たちがこの学びのひとつのモデルになり、同じ同級生を見ることでインセンティブが高まっていく循環にあるということです。このプログラムも3年目に入り、その上でも我々が責任を持って進めていかななくてはなりません。このプログラムで利益を得る者は、一部の学生だけではなく、さらに発展するものにしていくためにもここにお集まりの各委員ならびに教育委員会の職員の皆さまが意識をして取り組んでいかねばなりません。さらに、これは英語教育だけでなく、様々な教育に波及していくことが期待されていると考えております。門真市のこの取組は、グローバル化の一步先を行くジャンプボード、羽板となる役割を担っていけると期待しております。また、期待しているだけでなく、我々は具体的に実践できるようにもっていきたいと思っております。

これまで学生を育てる機会をいただいたという意味で関西外国語大学がこれまで深くこのプログラムにかかわりを持たせていただいたことにお礼を申し上げます。

<事務局>

ありがとうございました。それではこの後の進行を、柴田委員長にお願いいたします。

4. 推進委員会の公開・非公開について

<柴田委員長>

それでは、まず本推進委員会の公開・非公開について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

説明申し上げます。資料2「審議会等の会議の公開に関する指針（抜粋）」をご覧ください。会議の公開・非公開の決定は、委員会の長が会議に諮って行うこととなっております。

なお、事務局といたしましては、本委員会において個人情報等の非開示情報を扱う恐れがあることから、「非公開」とすることをご提案させて頂きたく存じます。

また、会議録につきましては発言、趣旨などを把握できるような形での要旨筆記とさせていただき、ホームページにおいて公開いたしますのでよろしくお願いいたします。

<柴田委員長>

説明は終わりました。何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

意見がないようでしたら、本推進委員会を非公開とし、会議録については事務局提案どおりでよろしいでしょうか。

<推進委員>

異議なし

5. 第2回プレゼンテーションコンテストのふりかえり

<柴田委員長>

つぎに、第2回プレゼンテーションコンテストのふりかえりについて事務局から説明をお願いします。

<事務局>

それでは、ご説明申し上げます。本年2月23日ルミエールホールにおきまして、門真市めざせ世界へはばたけ事業、第2回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストを関西外国語大学と門真市、門真市教育委員会の主催により開催いたしました。開催後、教育委員会から関西外国語大学へ、事業評価報告書の作成をお願いし、資料4のとおりご回答いただきました。その中で、このコンテストに参加した生徒の意欲やコミュニケーション力の向上が見られたとの評価をいただきました。同時に、事業のさらなる充実、発展をさせるために、とのご提言をいただいております。

提言では、応募した生徒の能力の向上や門真市全体のレベルアップ。そして、コンテスト当日、会場に出場者関係者だけでなく、もっと多くの中学生が会場での発表を聞くことができる取り組みができるように進めてほしい、等のご指摘を頂きました。

今年度の第3回プレゼンテーションコンテストにあたりましては、門真市教育委員会が中心となり、市内の中学生全体の英語学習にはずみがつくようなきっかけづくりとなるように、これまで同様、市内中学校の英語教員の協力に加え、大学や大学生がサポートしていただくといった形で、進めていければと考えております。以上、説明を終わらせていただきます。

<柴田委員長>

ありがとうございました。第2回のふりかえりについて、何か事務局にご意見、ご質問はございませんか。

<柴田委員長>

事業評価の説明は、ありますか？

<事務局>

事業の効果指標として、英語教育の専門家である3人の関西外国語大学教授に本事業に対して10段階評価を行っていただいたところ7.2、8、8.3でした。評価指標は異なりますが、前回（上記教授のうち2名）8、6.1と比較して向上していると評価しております。なお、第2回プレゼンテーションコンテストの3回に及ぶ事前研修においても、関西外国語大学の学生約10名とともに、市立中学校英語教諭12名の支援を受けることができました。

<松宮副委員長>

第2回のコンテストにてプレゼンテーションをされた9名の中学生たちの能力が上がっていました。これは、参加した中学校の先生からからも伺うことができました。私がとても感動したのは、1回目に派遣された中学生が先輩としての役割が非常に大きかった。このプログラムの良さは、これに参加することによって、成長が著しく、本来3年間かかるところが、たった1週間でできるというような刺激を与えているのかなと思います。そういった意味で、参加した学生のみならずにいかにすそ野を広げていくのが課題になると思います。

<西村委員>

私も本当に2回目になって、素晴らしい取組がだんだん盛り上がっていると思います。また、参加されています先生方も増えて、各中学校で盛り上がっているなど感じました。先ほど、事務局からもありましたが、当日会場に中学生がたくさん来て、仲間が前で発表している姿を見ることができたら自分もやってみたいなあというように盛り上がっていくと思います。このプレゼンテーションコンテストは、

他から見ても素晴らしいものになっておりますので、中学生が見たらもっと広がっていくと思いますので、3回目に他の中学生が来たら、素晴らしいものになると思います。

<柴田委員長>

1回目から2回目にかけて変化があった点は、先生方が練習、発表の時に参加する方が増えたことです。応募数も前年の191名から367名と倍近くに増えました。第2回から第3回への課題は、当日見に来ていただく方を増やすこと。また、毎回課題を抽出し、解決に向けて進んでいければと考えております。

<西村委員>

小学生の保護者が来られて、地域の方がたくさん見ておられたのは、すごく広がりを感じます。

6. 第2回海外派遣研修について

<柴田委員長>

他にご意見がないようですので、次に、第2回海外派遣研修について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

それでは、ご説明申し上げます。資料5第2回海外派遣研修行程表、第1回、第2回事前研修報告書、研修生名簿をご覧ください。

第2回門真市中学生海外派遣研修は、平成25年8月3日から12日の10日間実施いたします。行き先は、南オーストラリアアデレード市です。派遣職員につきましては、市立中学校の英語教員から公募し、面接の結果、門真市立第五中学校前塚卓三教諭に決定いたしました。もう1名は地域教育文化課職員の私、清水智覚でございます。あと旅行会社の添乗員が1名で、計3名での引率となります。

海外派遣研修の経過でございますが、3月26日に引受先の旅行会社(株)アーク・スリー・インターナショナルと門真市中学生海外派遣研修業務の委託契約を締結し、4月27日に海外派遣研修参加説明会を、生徒とその保護者を対象に市教育センターで開催いたしました。旅行会社からは、渡航手続きの説明とアデレード市の紹介がございました。この派遣研修をより効果的なものにするため、渡航までに3回の事前研修を開催いたします。第1回事前研修を6月1日、第2回を6月29日に実施いたしました。第1回事前研修では、前塚教諭に研修内容の企画段階から参加願い、現地での自己紹介や、ウェルカムパーティの出し物の決定を関西外国語大学、ならびに市内中学校の英語担当教諭とともに指導を受け行いました。

6月29日の第2回事前研修では、研修前に青少年活動センター多目的室にてウェルカムパーティの練習を候補生自ら中心となって行い、その後スカイプの疑似体験ならびに英会話練習を行いました。7月26日の第3回研修では、スカイプを活用して現地との交流を行う予定にしております。

現地での行程表は、資料5に添付しておりますとおり、現地での研修はホストファミリーとの生活体験を中心に、自然環境の体験、学校でのプレゼンテーションの機会を設けております。

海外研修の内容や感想につきましては、第3回プレゼンテーションコンテストの中で中学2年生を中心に報告をしてもらう予定にするなど、様々な場で報告することで体験を確かなものにしていくことにしています。中学3年生につきましては受験の時期でもありますので、一定の配慮をしながら、発表の機会を設定できるよう検討してまいります。簡単ではございますが、以上でご説明を終わります。

<柴田委員長>

ありがとうございます。この件につきまして、なにかご意見などはありませんでしょうか？
事前研修は、前回の方は参加されていますか？

<事務局>

参加されていません。

<柴田委員長>

海外派遣研修終了後は、なにか報告するようなことを考えていますか？

<事務局>

はい、研修終了後は、帰国後報告会を8月31日（土）に予定しております。その内容につきましては、次回第3回事前研修時に通知する予定にしております。

<松宮副委員長>

7月26日に第3回事前研修を予定されておりますが、交流校のキャンベル校コーディネーター、バーバラ・テラーさんと連絡が取りまして、具体的に内容、質問項目の確認は終わっております。現地との時差は、30分ありまして、スカイプの開始時間、テスト通話の内容などの確認は終わっております。こちらから使うスカイプのアドレスもお互いに交換も済ませております。バーバラさんも非常に協力的で楽しみにされております。というのは、オーストラリアの中学生が日本の中学生と話をすることを楽しみに期待しているということのメッセージが届いております。

<脊戸委員>

研修を受けている生徒の中には、ミュージカルやダンスをしている子供たちがいます。その子供たちが中心となって、ウェルカムパーティの練習を事前研修前に自分たちでやろうと盛り上がっています。

<柴田委員長>

去年は、チーム名があったようですが、今年は？

<事務局>

去年は、KDM9でした。今年は、門真の「K a d o (かど) ちゃん」でoがスマイルマークになっております。キャッチフレーズは「TRY! TRY!! TRY!!! Don't be shy」です。

7. 第3回プレゼンテーションコンテスト実施要項について

<柴田委員長>

すでに3回目の募集が広報に掲載され始まっています、第3回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて事務局から説明をお願いします。

<事務局>

それでは、第3回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト実施要項案についてご説明いたします。

資料6、実施要項をご覧ください。日時は、平成26年2月23日（月）午後1時30分から4時30分まで会場はルミエールホール小ホールで行う予定にしております。7番の参加資格以降は、昨年と同様の内容にしております。ただし、一次審査の選考につきましては、昨年度は関西外国語大学の先生方をお願いしていた部分を門真市教育委員会が主となって行います。

<柴田委員長>

ありがとうございました。何かご質問やご意見はございますでしょうか。

<柴田委員長>

第2回は、模造紙を用いて、プレゼンを行っていましたが、今年は、どのように考えていますか。

<事務局>

前回同様、模造紙を考えております。

<松宮副委員長>

プレゼンテーションコンテストについて1件提案いたしますので、ご審議をお願いします。来年2月23日のプレゼンテーションコンテストの模様をオーストラリア、キャンベル校にスカイプで中継することを提案いたします。もちろん、向こうと調整する必要がありますが、この委員会にて調整することを了解していただきましたら、門真市の中学生が参加していただくコンテストの内容を交流校であるキャンベル校と中継してみようか話を進めていこうかと現地と話をしております。聴衆として来ていただいている方にも正面のスクリーンにオーストラリアの教室の模様を映し、ダイナミックさといえますか、地球の裏側ともつながって、評価にかかわることなく、向こうの学生もコンテストを応援していますという環境を作り出すことを本委員会です承されれば、話を進めていきたいと考えております。

<柴田委員長>

ただいま松宮副委員長から素晴らしい意見をいただきましたが、この意見についてなにかご意見はありませんでしょうか？

別にそれによって時間的にいろいろ変わることはありませんか？

<松宮副委員長>

まったくありません。そのままの会場の様子をオーストラリアに中継します。イメージとしては、プレゼンをしている中学生は、オーストラリアの教室の様子を後方のスクリーンを見ながらプレゼンをすることができます。モチベーションはかなり上がり、リアルさがでてくると思います。

<柴田委員長>

中継を見ていただくだけで、向こうとのやり取りは考えておられませんか？

<松宮副委員長>

特にはしない方がいいと思います。試行的に今回やってみて、また4回5回と続ける中で向こうにも審査員に入ってもらおうとかは、正直には可能だと思います。要は、オーストラリアに行けない生徒が半

分いることです。その生徒達のプレゼンテーションの様子をオーストラリアに送ってしまおうということです。そうすると彼らもある程度疑似的にオーストラリアの人達にプレゼンテーションの機会をもらったというところができますので、そういった意味でお考えいただければと思います。

<藤井委員>

シンプルですが、非常に新しい取り組みだと思います。

先方にとっても、英語で聞いていただけるわけなので、新たなヒントをいただいたと思います。

<柴田委員長>

あの、前回、去年ですけど先生方から将来的に国際交流ということで、まずは学校の教科書や制服など、身近なところを通じて交流すればどうかとお話がありました。これも国際交流の一つになりますし、今後国際交流をしていくうえで、海外派遣に行かれた生徒たちが中心となって現地との交流を考えてもらうのも方法の一つかなと思います。

去年いただきました素晴らしい提案ですので、忘れずに積み重ねて近い将来できるように毎年蓄積していきながら、進めていけばと考えております。

委員会としては、ご提案いただいた内容を実施に向けて前向きに検討していくことにいたしたいと思っております。

<松宮副委員長>

技術的な件につきましては、オーストラリアと合意をしたうえで会場の方と機材の設営などについて検討していきたいと考えております。今日のご了解を受けて、スタートさせるということにいたしたいと思っております。

8. 今後のスケジュールについて

<柴田委員長>

それでは、最後に今後のスケジュールについて、事務局から連絡をお願いします。

<事務局>

それでは、ご説明いたします。

海外派遣研修につきましては、今週金曜日 26 日（金）の午前に市長、正・副議長、教育長への表敬訪問の後、午後から 3 回目となります事前研修を行います。海外派遣研修は 8 月 3 日から 12 日までの期間で実施し、帰国後は報告の場を設けます。

第 3 回プレゼンテーションコンテストは、7 月の広報・ホームページにおきまして募集を開始いたしております。9 月 27 日に出場者の募集を終了し、10 月中旬に書類審査、11 月下旬に面接審査を実施いたします。また、12 月には第 3 回海外派遣研修のために門真市中学生海外派遣業務の受託者選定審査委員会を実施し、業者を決定いたします。進行状況や協力のお願につきましては、適宜事務局から皆様にご連絡させていただきます。

次回、事業推進委員会は来年 2 月下旬、第 3 回プレゼンテーションコンテスト終了後に予定をしております。さきほど、副委員長からいただいたご提案もありますので、この時期に開催してよいかご検討をお願いします。以上で、説明を終わります。

<松宮副委員長>

今日ご了解いただきましたので、チャールズ・キャンベル校と連絡を取り、協議を進めます。その結果を文書にて持ち回りなどでお伝えすることでよければ、このスケジュール通りで結構です。

<柴田委員長>

なにか質問はございませんでしょうか？

<並松委員>

選ばれているのは、七中に集中しておりますが、プレゼンテーションはすべての学校が参加されたのですか。

<柴田委員長>

昨年の状況について報告をお願いします。

<脊戸委員>

全市立中学校です。それと私立、国立大学附属中学生も参加しております。全て門真市在中の中学生でございます。

<並松委員>

たまたま七中に集中したということですか？

<脊戸委員>

はい。

<柴田委員長>

募集締め切りが9月27日ということでまだ時間ありますが、広報以外でなにかPRはされましたか？

<事務局>

昨年も実施しましたが、市内各中学校1、2年生全員に応募用紙を配布し、ポスターを各中学校に配付し掲示いただきました。

<並松委員>

発表の時に小学生の保護者の方もお見えになっているのは、とてもいいことだと思います。中学生が発表しているのを見るのもいいですが、小学5年6年生あたりの児童が何をやっているかよくわからないが中学生が、ものすごいことやっているということをお父さんやお母さんといっしょに見て体感することは、将来的にもよいことだと思います。会場にたくさんの方が参加されるように、このポスターを小学校にも配ったらどうでしょう？

<事務局>

配付させていただきます。

<柴田委員長>

事務局には、いただいた多くのご意見をコンテスト当日に結び付けるように、幅広い視野で検討していただきたいと思います。

<柴田委員長>

他にないようでしたら以上をもちまして、平成 25 年度第 1 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を終わらせて頂きます。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。今後とも、よろしく願いいたします。